

第 47 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	中島ゼミ II	チーム名	LINE
タイトル	男女の一線		
テーマ群	a) 理論・情報 f) 歴史・思想 g) その他		
メンバー			
研究計画内容	<p>[研究目的] 最近、不倫問題がメディアを賑わしています。こうした不倫問題は、芸能人だけでなく政治家や文化人にまで及んでいるのですが、皆さんは次の印象的な言葉をきくと耳にしていることでしょうか：</p> <p style="text-align: center;">『一線は越えてません』</p> <p>私たちの研究の旅路はこの言葉の持つ意味を考えることから始まります。</p> <p>品行公正な皆さんにとって、「不倫」は現実離れた話題であるかもしれません。しかし、「不倫」とはそもそも何なのでしょう。そして、「一線を越える」とはどういったことを意味するのでしょうか。私たちは、不倫関係における「一線」という言葉を足がかりに、不倫が社会や経済にどのような影響を与え、逆に、それが意味する内容が社会的な文脈の中でどのように変わってきたのかを研究します。その上で、根絶させることは出来ないまでも、不倫は少なくなりうるのか、少なくなりうるのであれば、どういった社会・経済環境下で少なくなりうるのかを皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。</p> <p>[研究内容] 現在、日本経済の先行き不透明感が増している中で、不倫の市場規模は、2015 年時点で 4 兆 8456 億円とされています。これは日本の GDP の 1% を占める莫大な規模です。この経済規模の大きさを鑑みるに、いくら倫理的に「不倫は良くない」と言ってはみても、不倫問題は、人間が人間である限り避けては通ることが出来ない重大な問題であると類推されます。この重大な問題に対し、私たちは、以下二つの分析視点から研究を進めることで、社会がバランスしうるような不倫の在り方を見極めていきます。</p> <p>一つ目の分析視点は、男女の一線はどこにあるのか、を実証的に確定させることに関わってきます。この目的のため、私たちは、甲南大学生を中心にアンケート調査を行うことで、交際中にある男女間において「一線を越える＝不倫をする」という行為が何を意味しているのかを確定していきます。</p> <p>二つ目の分析視点として、不倫と社会環境・経済環境の相互関係を考察します。とりわけ、日本において「不倫＝一線を越える」ということが経済的にどういった意味を持ち、心理的、歴史的な観点からどのように解されるのかを考察していきます。</p>		